

人を集めての交流パーティーを主催される等、国際交流に大活躍の三条市には貴重なキャリアウーマンでいらっしゃいます。

長谷川健康殿

中央大学経済学部卒、三条市役所経済学部商工課を経て現在、総務企画課国際交流係長
市役所きっての国際通で、昨年、カナダのバーン市との姉妹都市提携に伴い、職員としてはじめてバーン市へ派遣され、研修を積まれた。現在、企画課国際交流係として、三条市の国際化政策の企画、立案、市民の国際的視野の涵養、姉妹都市間の交流事業等に大活躍の若手ホープです。

卓 話： 「新潟県国際交流協会の活動について」

国際交流ボランティア相談員 五十嵐良子さん



三条ロータリークラブの皆様、この度は研究グループ交換（GSE）メンバーとしてご推薦いただきまして、誠に有り難うございました。

オーストラリアでは出来る限り多くのことを見、学び、元来好奇心旺盛な人間ですからなんでも体験して来たいと思っております。ホームスティの受入れは何回も経験していますが、私自身がスティさせていただくのは初めてです。今後の受入れのためにもとても良い機会になると確信しております。

研修終了後はきちんとしたかたちで、皆様に報告が出来るように精一杯頑張ってきたと思っております。どうか最後までご支援を宜しくお願い致します。

また先月10月26日、27日には村上で行われました、ロータリークラブ第2560地区大会にも参加させて戴きました。ロータリークラブの奉仕活動は国内だけにとどまらず地球規模で大きく活動されていることに今さらながら驚かされました。またその活動にほんの少しでもふれることのできた私は大変光栄であると実感いたしました。

現在の私の仕事は語学教室で英語、スペイン語、外国人には日本語を教えております。また新潟県国際交流協会では外国人のためのカウンセラーをやっております。きちんとしたかたちで受入れされていない外国人は県内にも多く、さまざまな生活上の問題をかかえています。相談にやって来る外国人たちと接し、一緒に喜んだり、悩んだり、私にとっては毎日が新しい発見の連続です。またその反面、日本はまだまだ外国人受入れ体制が未熟なのだのと痛感もしております。

そしてもう一つ、県警の依頼で、新潟市の警察署でスペイン語の通訳もやっております。主に中南米系の犯人の取調べの通訳です。まじめで生粋の新潟県人の刑事さんたちと、小さい時から貧しくて学校にも行けなかった中南米の犯人たちとの間には大きな文化習慣、考え方のちがいがありません。

はじめの頃、犯人は全く心を開かず、また自分の犯した罪の重さが日本と母国では大きく違い、

取調べは非常に困難を要します。しかしそこはベテランの刑事さんたち、犯人は少しずつ日本の法律そして警察のしくみを理解し、刑事さんに対しても信頼の表情を見せてきます。「なぜ罪を犯してしまったか。」の問いに、母国では決して感じることもなかった差別そして屈辱感を生まれて初めて感じたこと。明るい希望を持ってやって来たであろう出稼ぎの地日本です。日本の法務省入国管理局が下す滞在許可（ビザ）を有するか否かで、同国人同志の間でも人種の差別ができてしまっているそうです。「不法滞在」というレッテルは彼らから仕事だけでなく、人間らしさをも奪ってしまったようです。もちろん日本で犯した罪は日本の法で裁かれることは当然です。ただ私達日本人が無意識のうちに、日本人の血が流れている者のみを受け入れようとした差別。そしてその差別意識が外国人の犯罪率を高めている一因であるのかもしれない私には思われてなりません。

来年3月オーストラリア訪問の折には、日頃私が日本で感じていることが、オーストラリアではどうなのか。外国人の受入れはどのようにされているのか。そして実際に現地に住む外国人にインタビューし彼らのもつオーストラリア人、オーストラリアについて語ってもらおうと思っております。

もちろん私の専門であります学校、ボランティアセンターへは積極的に訪問し、彼らの語学指導、ボランティアの取り組みについて出来るかぎり、学んできたいと思っていることはいうまでもありませんが。

最後にもう一度、GSEとして研究メンバーの一員に加えていただき、本当に有り難うございます。そしてどうかよろしくお願い致します。

「姉妹都市バーン市（カナダ）との国際交流について」

三条市企画課係長 長谷川健康さん



三条市の、平成8年9月末現在における、国籍別外国人登録者数は、21カ国377人であり、国籍別に見ると、中国、フィリピン、ブラジルが断然突出し、全体の約7割を占めています。

三条市は、金属関連産業を有する名だたる地場産業の街であることから、発展途上国への技術協力の一環として、三条商工会議所が受入れ母体となり、友好都市鄂州市から中国人技術研修生を、また、三条労務経営センターでは、フィリピン技術研修生を受入れていることから、このような数値となっています。

このように、私どもを取り巻く社会環境、社会構造は、都会と何らの差異がなくなり、地方においても国際化の波は着実に押し寄せて来ています。

今、日本のマスメディアにおいても、一つの変革が起き、ニュースキャスター自身が通訳を介さず、直接諸外国のインタビューアールとコンタクトをとる姿をリアルタイムでテレビで見ると、外国語の不得意な民族の中であって、その素晴らしい光景には、目を見張るものがあり、21世紀を